



# TOKYO交通安全キャンペーン

## 12月1日(土)~7日(金)

年末における交通事故防止および渋滞防止を図ることを目的に、都内において「平成二十四年TOKYO交通安全キャンペーン」が実施されます。

区と区内警察署などが連携して、「やさしさが走るこの街 この道路」をスローガンに、次の重点項目を掲げてキャンペーンを推進していきます。

### 子どもと高齢者の交通事故防止

小学生の飛び出し交通死亡事故が発生しています。信号を守ることで横断歩道を渡るなど交通ルールを守りましょう。

高齢者の皆さんは、昼間も明るく目立つ服装を心掛けるとともに、夕暮れ時や夜間は反射材用品を身に付けて外出するようにしましょう。

運転者の皆さんは、子どもや高齢者を見かけたら、徐行や十分な間隔を保持するなど「思いやりのある運転」を心掛けましょう。

### 自転車の安全利用の推進

自転車に乗るときは、自転車安全利用五則を実践し交通ルールを順守しましょう。

①自転車は、車道が原則、歩道は例外  
②車道は左側を通行  
③歩道は歩行者優先で、車道よりを徐行

④安全ルールを守る  
・飲酒運転・二人乗り・並進の禁止  
・夜間はライトを点灯  
・交差点での信号遵守と一時停止・安全確認

⑤子どもはヘルメットを着用  
◎銀座一丁目から八丁目まで

飲酒運転は重大な交通事故に直結する悪質な犯罪です。また、車を運転することを知らずながら運転者に酒を勧めたり飲んだ人に車両を提供すること、飲酒運転の車両に同乗することも、犯罪として道路交通法で厳しく罰せられます。「酒を飲んだ人には車を貸さない、運転させない、同乗しない」ことを実践しましょう。



▲「TOKYO交通安全キャンペーン」ポスター

の中央通りの歩道上は自転車に乗って通行することはできません。車道の左側を通行しましょう。

◎ブレーキやライトを備えていない自転車は道路を走行することができません。自転車販売店などで定期的に点検整備を受けましょう。

### 飲酒運転の根絶

飲酒運転は重大な交通事故に直結する悪質な犯罪です。また、車を運転することを知らずながら運転者に酒を勧めたり飲んだ人に車両を提供すること、飲酒運転の車両に同乗することも、犯罪として道路交通法で厳しく罰せられます。「酒を飲んだ人には車を貸さない、運転させない、同乗しない」ことを実践しましょう。

運転者の皆さんは、「飲んだら乗らない、乗るなら飲まない」を徹底しましょう。

二輪車の交通事故防止  
二輪車のスピードの出過ぎ

このキャンペーンを通して皆さん一人ひとりが交通ルールの順守と正しいマナーの実践を励行し、交通事故の防止と渋滞の解消に努めていきましょう。

また、日頃から交通ルールなどを家庭で話し合う習慣をつけていきましょう。

皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

ぎや無理な追い越しは大変危険です。自分の運転技術や車両の性能を過信することなくカーブや交差点の手前では十分に速度を落とすなど、安全運転に心掛けましょう。

また、ヘルメットや胸部プロテクターを正しく着用して、自分の身体を守りましょう。

### 違法駐車対策の推進

違法駐車は、渋滞や交通事故を引き起こす原因になるなど、都市交通に悪影響を及ぼしています。

車での外出や買い物の際には、あらかじめ駐車場の場所を確認しておきましょう。そして、短時間でも必ず駐車場やパーキング・メーターなどを利用しましょう。

地域ぐるみで、違法駐車を「しない・させない運動」を推進しましょう。

このキャンペーンを通して皆さん一人ひとりが交通ルールの順守と正しいマナーの実践を励行し、交通事故の防止と渋滞の解消に努めていきましょう。

また、日頃から交通ルールなどを家庭で話し合う習慣をつけていきましょう。

皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

このほど、さまざまな団体の代表との「区政を話し合う会」が開かれ、幅広い問題について活発、かつ熱心に意見を交換することができて大変有意義でした。この会は区民各層の意見や要望を直接聴き、行政施策に生かすため昭和四十七年から毎年開催しています。四十一回目の今回は消防団区商連、工団連、消費者友の会、婦人学級連絡会、体育協会、各種障害者団体、食品衛生協会、PTA連合会など二十三団体と一般公募の方々が参加。



この中で、まちづくりについては築地場外市場の波除通りの整備、東京駅前の再開発促進、マンションの適正管理などが喚起されました。また、「福祉」では重度身体障害者の通所サービスや医療ケアの充実、知的障害者の特別支援教育の拡充や雇用促進、精神障害者の地域活動支援センターの設立などが要望されました。さらに、長引く不況から脱却するため、さらなる景気浮揚策が強く提案されました。一方、行商による路上弁当販売が目立ちますが、不衛生であるため、厳しく取り締まるよう監視強化も求められました。

